

# 石川県防災会議（議事要旨）

## 1 日時

平成 29 年 5 月 30 日(火) 15 時 00 分～15 時 40 分

## 2 場所

石川県庁行政庁舎 11 階 1105 会議室

## 3 出席者

防災会議会長（谷本知事）ほか 委員 57 人

## 4 議題

- ① 石川県地域防災計画（一般災害対策編等）の見直しについて
- ② 平成 29 年度石川県水防計画の策定について

## 5 議事要旨

### (1) 議事概要

会長（谷本石川県知事）のあいさつに続き、会長が議長となって議事に入った。

議題①「石川県地域防災計画（一般災害対策編等）の見直しについて」、議題②「平成 29 年度石川県水防計画の策定について」を事務局から説明し、震災対策部会部会長である室崎委員による補足説明、質疑応答の後、原案のとおり承認された。

### (2) 室崎委員（石川県震災対策部会 部会長）による補足説明要旨

今回見直した津波の浸水想定は 100% 確実ではなく、相手は自然なので多少の誤差はある。なので、前は浸水区域だったが今回は外れた地域や、浸水区域から少し離れているような地域等は安全だと思われると困る。誤差の範囲があるので、概ねその辺が危険だという認識のもと、近郊の地域についても警戒心を持って津波対策に取り組まないといけない。

また、防災士の育成がどんどん進んできている中で、防災士の活躍の場や研修システムを充実させるなど、成果に甘んじることなく、引き続き強化して欲しい。

個人的な意見としては、石川県は、今年で能登半島地震から 10 年目を迎え、当時の教訓を生かしてこれまで積極的活動をされているが、昨年の熊本地震などでの新たな教訓の中に石川県が学ぶこともたくさんあると思う。今後は能登半島地震の教訓だけでなく、こうした他の地域の教訓についても、今後の防災対策に生かして欲しい。

### (3) 質疑応答の要旨

#### ・ 意見：一般社団法人石川県災害ボランティア協会事務局長

今回の水防計画の見直しについて、河川の改修事業が進み、治水の安全度が向上したため、水防上重要な区間等が減少したとのことだが、例えば鍋谷川では具体的にどのような工事を行ったのか。

・ 回答：事務局

鍋谷川については、小松市の古府町地内にて、洪水時に堤防の一部からの漏水が確認されたため、堤防の河川側にシートやコンクリートのブロックを張り、河川から堤防内へ水が浸透することを防ぐ工事を行った。

・ 意見：公益社団法人石川県医師会

台風第10号災害等では、共助の意識不足により避難が遅れたとあるが、東日本大震災では人を助けに行きながら自らが被害に遭うということも教訓としてあった。その整合性はどうか。

また、避難勧告等の情報について、例えばテレビでそういう情報が出てくるといふ認識で良いのか。

・ 回答：事務局

今回教訓にしているのは津波ではなく水害ということで、若干津波に比べればいとまもあることから、近隣の方々に声かけしながら避難することもできる。そういう意味では整合が取れていると考えている。

また、避難勧告等の情報については、テレビ等での放送もあるが、まずは市町から防災行政無線等を中心に伝達する。